

山陽新聞に掲載されました

平岡(倉敷中央)大会新で制す 女子400

陸上女子400mは平岡が55秒75をマークし、倉敷中央OGの荒島が持っていた大会記録(56秒63)を8年ぶりに更新。自己記録を1秒61も短縮し、「すごく自信になった」と声を弾ませた。

「途中でスピードをセーブしてしまう」と自覚する悪癖を抑え、最後までフルスロットルで駆け抜けた。スムーズな加速で、これまで後塵(こうじん)を拝してきた岡山東商と朝日の強敵3人を引き離し、初の戴冠。森

定監督は「元々彼女らに並ぶだけの力があった。ようやく『4番手』の殻を破ってくれた」と目を細めた。

昨年11月に1600mリレーで、初めて55秒台でバトンをつないだことが転機になったという。冬季練習では「誰と勝負しても先頭は譲らない」と高い意識で走り込みを重ね、最終学年での飛躍につなげた。昨年はリレー2種目で出場したインターハイ。中国大会で個人種目では初の切符



陸上女子400mを55秒75の大会新で制した平岡優花(左)

(松原悠)

木梨(倉敷中央)大会新優勝

↑5月27日(土) 山陽新聞(朝刊)

5月29日(月) 山陽新聞(朝刊)



陸上女子100m障害を13秒94の大会新で制した木梨光菜=シティライトスタジアム

自らに課したノルマを難なくクリアした。陸上女子100m障害は木梨が13秒94で初の戴冠。4月に出したばかりの自己記録を再び0秒6塗り替え、初の13秒台。「最近になって3台目でも見せつけた。自らに課したノルマを難なくクリアした。陸上女子100m障害は木梨が13秒94で初の戴冠。4月に出したばかりの自己記録を再び0秒6塗り替え、初の13秒台。「最近になって3台目でも見せつけた。自らに課したノルマを難なくクリアした。陸上女子100m障害は木梨が13秒94で初の戴冠。4月に出したばかりの自己記録を再び0秒6塗り替え、初の13秒台。「最近になって3台目でも見せつけた。」から一気に加速する感覚をつかんだ。前日には100mでも初めて12秒の壁を破り、11秒95で優勝。抜群のスピードを「本職」のやり合っている。5大

女子100障 初13秒台 一気に加速 追隨許さず

会ぶりにリレー2種目を制したチームにあって日々の熾烈(しれつ)な競争が走力アップを支えている。「自分も2年生で勝って並びたかった」と津山高2、3年時に100mを連覇した兄・嘉紀(順大)の存在も大きなモチベーションとなった。個人種目では初のインターハイ切符に挑む中国大会を「通過点」と言い切る。400mリレーを含む3冠達成を喜ぶより、1600mリレーの優勝メンバーから外れたことを悔(くやし)がる貪欲(くろん)な16歳はまだまだ成長を遂げそうだ。(松原悠)